２０２４年度　安全報告書

２０２５年　５月１３日

黒部峡谷鉄道株式会社

１．お客さまへ

当鉄道は、黒部川水系の発電所建設用の資材や作業に従事される方の輸送を目的として、大正末期から宇奈月を起点に順次上流へ向けて敷設され、昭和１２年には終点欅平までの全線(20.1km)が完成いたしました。

昭和２８年、地方鉄道法による旅客営業の認可を受け一般利用者の輸送を開始し、昭和４６年に黒部峡谷鉄道㈱として新たなスタートをきりました。

２０２４年１月１日に発生した能登半島地震により当社も被害を受けました。鐘釣駅の駅名の由来にもなった『東鐘釣山』からの落石により、『鐘釣橋』が損傷し２０２４年度は猫又以奥の運行を断念、宇奈月駅～猫又駅間の部分運行での営業を余儀なくされました。

鐘釣橋の復旧に向け東鐘釣山の状況を詳しく調査したところ、山肌の安定化を図るための諸対策が必要であることが判明しました。

このような中、よりお客さまにご満足いただけるよう普段は降りることができない猫又駅を、２０２４年１０月５日より２０分程度下車できるようにいたしました。鐘釣や欅平の観光を心待ちにされているお客さまには大変ご不便をおかけしておりますが、１日も早い復旧に向け鋭意取り組んでおりますので今しばらくお待ちいただけますようお願い申し上げます。

お寺の釣鐘を伏せたような形の東鐘釣山

鐘釣橋を渡るトロッコ電車

当社では、輸送の安全確保を最優先に、鉄道施設・車両の安全確保のみならず、直接お客さまの命を預かる乗務員の心身の健康維持、並びに厳しい自然環境下で事業を営むことから、山腹斜面の安全確保にも鋭意取り組んでいます。

また、国土交通省の定める「安全管理規程に係るガイドライン」に沿って定めた安全管理規程に基づき、安全に関する取り組みを体系化するとともに、安全管理の体制が機能していることを検証する内部監査を実施し、安全管理体制の維持活動に積極的に取り組んでおります。

今後も「安全・安心の確保」を基軸とし、より多くの皆さまに「夢・感動」をお届けできる観光鉄道を目指してまいります。

ここに本報告書を公表することにより、輸送の安全確保のための取り組みをご紹介し、皆さまからの声を更なる安全性向上に役立たせたく、率直なご意見・ご感想をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

２０２４年度　営業運転開始セレモニーにて

黒部峡谷鉄道株式会社
代表取締役社長　鈴木俊茂

２．基本方針

当社では安全とサービスを柱とし、社会の信頼に応えお客さまへ最良のサービスを提供するための「経営理念」及び「行動指針」のもと、安全第一を具現化した「輸送の安全確保に係る行動規範」を制定し、社長以下全従業員が一丸となり輸送の安全・安定運行に努めています。

経営理念	わたしたちは「安全・安心」そして「夢・感動」をおとどけすることで お客さまの満足を得るとともに社会に貢献することを目指します。
行動指針	◦すべてはお客さまのために、これがわたしたちの原点です。 ◦誠実であり続けることから、わたしたちへの信頼が生まれます。 ◦時代を先取りする柔軟な発想で、新たな価値を創造します。 ◦事業にたずさわる一人ひとりが、かけがえのない財産です。 ◦ルールを守り、品位を保つとともに社会的良識をわきまえ行動します。
輸送の安全確保に係る行動規範	①全社一致協力して、輸送の安全確保に努めます。 ②法令や規程を理解・遵守して職務を遂行します。 ③常に輸送の安全に関する状況の理解に努めます。 ④確認の励行に努め、最も安全な取扱いをします。 ⑤事故災害時には人命救助を最優先に行動します。 ⑥情報を漏れなく伝達して、透明性を確保します。 ⑦常に問題意識を持ち、変革に果敢に挑戦します。

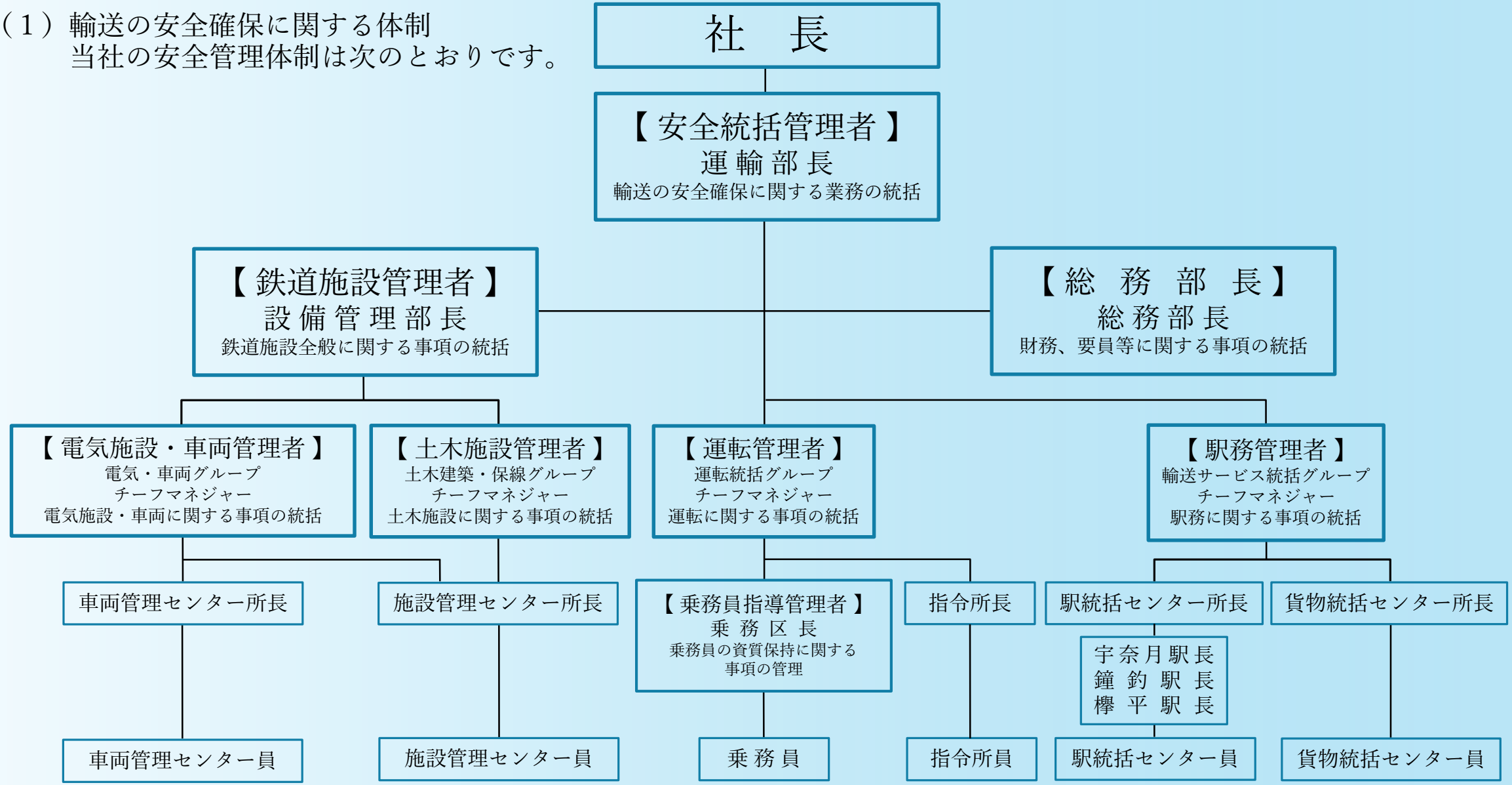
３．安全重点施策

２０２４年度は「安全最優先の浸透と徹底」をスローガンに掲げ、下記の重点課題に取り組んできました。

	重　点　実　施　項　目	活　　動　　内　　容
安全最優先の浸透と徹底	従業員一人ひとりへの安全・安心意識の浸透と徹底	○安全意識活性化策の展開と啓発による揺るぎない安全文化の構築 ○基本動作の徹底によるヒューマンエラー防止及び作業手順の遵守による確実な安全作業の実施 ○ＫＹ活動(グループ討議)を通じた危険要因の分析による一人ひとりの危険対応能力向上
	安全マネジメントの更なる推進	○ヒヤリハット情報の積極的な登録推進及び事例の有効活用による事故の未然防止 ○他社事故事例等の情報共有及び事例に基づくディスカッションの実施による同種事故の未然防止 ○安全の確保に向けた全社的な取り組みの推進 ○安全に関する内部監査の実施
	あらゆるリスクを想定した危機管理・対応力の強化	○高まる自然災害リスクの低減と防犯対策の強化 ・始発前パトロールでの確実な巡視点検の実施 ・気象情報及び沿線状況の把握による的確な警戒対応 ・テロや犯罪に対する警戒意識の向上 ○災害・異常に直面した際の対応力向上
	安全・安心な観光鉄道の運行	○専門技能の伝承と技術力向上による安定輸送の確保 ○直営作業等を通じた技術継承・教育訓練による技術力向上
	高経年・老朽化・強靭化への計画的対処の推進	○設備改修計画に基づく安全対策の確実な実施

４．安全管理体制

（１）輸送の安全確保に関する体制
　　当社の安全管理体制は次のとおりです。



（２）輸送安全委員会

設置	２００７年　８月２１日
目的	鉄道事業法 第１８条の２（輸送の安全性の向上）に基づき、当社の鉄道事業における安全の確保を積極的に推進することを目的とする。
開催	毎月１回
構成	委　員　長：取締役社長 副 委 員 長：運輸部長〔安全統括管理者〕 委　　員：設備管理部長〔鉄道施設管理者〕 総務部長 運転統括グループ チーフマネジャー〔運転管理者〕 輸送サービス統括グループ チーフマネジャー〔駅務管理者〕 土木建築・保線グループ チーフマネジャー〔土木施設管理者〕 電気・車両グループ チーフマネジャー〔電気施設・車両管理者〕 事　務　局：運転統括グループ、土木建築・保線グループ、企画・総務グループ

※ 部長代理もしくは担当部長職が置かれた場合は、委員会の承認を得て委員とすることができる。

※ 委員長が必要と認めるときは、関係者を出席させることができる。

（３）安全管理方法

① 輸送安全委員会を毎月１回定期的に開催して、次に掲げる事項に関して審議調整するとともに、定期報告によって管理者間で情報の共有化を図っています。

（審議調整事項）
・安全確保に関する目標および計画の策定
・内部監査の計画および実施結果の確認
・安全重点施策の取り組み状況
・事故、障害が発生した場合の再発防止対策
・安全報告書の内容

（定期報告事項）
・運輸局からの指示事項
・事故、障害の発生状況
・教育訓練の実施状況
・工事作業の進捗状況
・ヒヤリ・ハット情報の登録状況

② 安全マネジメントが確実に機能しているか内部監査等を通して確認し、必要に応じて見直しや好事例の水平展開に努めています。

③ 事故や障害が発生した場合には、関係者が協力して迅速かつ的確な対応を行うとともに、関係者で検討会を開催して原因の究明と対策を決定し、再発防止に取り組んでいます。

④ 係員の育成および教育に関する社内基準を定め、計画的に資格取得や教育訓練を実施し資質の向上を図っています。

５．事故・災害等の発生状況

（１）事故・災害の発生件数

鉄道事業法第１９条および第１９条の２に規定する、直近３ヶ年の事故・災害の発生件数は次のとおりです。

項目＼年度			２０２２年度	２０２３年度	２０２４年度
輸送障害	電気施設		2	0	1
	車両		0	0	1
	土木施設		0	0	0
	自然災害	水害	0	0	1
		風害	0	0	0
		雪害	0	0	0
		雷害	0	0	0
		震害	1	1	0
		落石	0	0	0
		倒木	0	2	1
		その他	0	0	0
合計			3	3	4

（２）輸送障害の対応

２０２４年度に発生した輸送障害について、次の対応を実施しました。

項　　目	区　　分	発生月日	状　　況	対　　応
自然災害	倒　　木	５月８日	９時１３分 宇奈月より５.６㎞付近にて倒木 電車線支障による運行障害 運休なし　　最大遅延３９分	電車線を停電し倒木処理 処置完了後３２分遅れで運転再開
車　　両	機関車	６月１６日	１２時４９分 森石駅にて機関車気笛吹鳴不良による運行障害 運休なし　　最大遅延１２分	当該列車森石駅にて運行打切り 当該列車森石駅側線に留置 後続列車１１分遅れで運転再開
電気施設	軌道回路	６月２１日	９時５２分 森石駅～笹平駅間の信号支障による運行障害 運休２本　　最大遅延１時間８分	森石～笹平間代用閉そく施行による運行 信号用リレー交換により復旧完了
自然災害	水　　害	９月２２日	９時５８分 出平駅～猫又駅間において大雨により沢水が増水し堆積した土砂が線路内に流入 運休２８本	冬期歩道等を使用し徒歩にて乗客避難誘導 軌道内流入土砂撤去し復旧完了 終日運休

6．安全性向上への取り組み

（1）安全運転の確保

① 的確な情報伝達と共有化

a．異常時には迅速に情報収集を行うとともに、関係箇所への情報連絡により、安全運行を確保しています。また、雨量計・風速計のデータ把握および緊急地震速報受信装置により大規模地震に伴う事故の未然回避と被害の軽減に取り組んでいます。

b．安全マネジメントの更なる充実を図り、ヒヤリ・ハット情報の登録推進およびデータ活用による事故の未然防止に取り組んでいます。

c．列車の空転・滑走対策として対応マニュアルを定め、運転技術の向上に努めています。

② 運転阻害要因の排除

a．車両入換時における手順の遵守、適切な位置取りでの合図および相互確認による阻害要因の排除に努めています。

b．沿線での作業・工事施工時の作業実施要領を定め、運転阻害要因を排除するとともに沿線の安全パトロールを行い、作業現場における安全確保への協力を要請しています。

③ 安全意識の高揚

輸送に係る従業員を対象に年間の安全目標を設定し定期的に自己評価を実施しています。また朝礼や点呼時に声に出して再確認することにより安全に対する意識の高揚を図っています。

（２）人材育成

輸送に係る係員の補充を確実に行い、常に必要人員を確保しています。また、各部門において職種別に安全面および技術面の必要な教育を実施しています。
そのほか社外講師による専門研修の受講および各種講習会への参加等により人材育成に努めています。

① 乗務員の資質管理

役職者による運転技能の添乗指導や作業の立会指導を計画的に実施し、乗務員の資質維持管理に努めています。
直近３ヶ年の添乗指導実績は次のとおりです。

		2022年度	2023年度	2024年度
総指導回数（回）		７３２	７６３	８２４
被指導者数（人）	運転士	２７	２６	２３
	車　掌	１４	１５	１８
	合　計	４１	４１	４１
一人当たりの平均指導回数（回）	運転士	１６	１７	１９
	車　掌	２１	２１	２１

② 事故災害時の訓練

冬期の営業休止期間を活用して事故・災害発生時の対応訓練を定期的に実施しています。
２０２４年度の訓練内容は次のとおりです。

名　　称	訓　練　内　容	実施日・参加者
冬期乗務員教育	自然災害、車両故障等発生時における対応訓練	2025年１月17日 乗務員
冬期乗務員教育	過去事例を活用した異常時・非常時における 情報伝達および対応訓練	2025年２月17日 乗務員 指令所員
運輸部情報連絡訓練	運行障害発生時に発令される運行支障ランクに 基づく運輸部各所属間の情報連絡訓練	2025年２月20日 運輸部各所属員
非常災害復旧訓練	非常災害を想定した実務訓練 ・状況把握、情報収集、情報伝達 ・乗客の避難及び誘導 ・負傷者の救出・救命救護等における関係各所 との連携	2025年３月７日 新川地域消防組合 黒部警察署 当社従業員
冬期乗務員教育	入換作業に伴う危険要因の抽出並びに対応策の 考察（ＫＹ活動）並びに代用閉そく施行に伴う 手順・方法等の確認	2025年３月17日 乗務員

各訓練の様子

（３）設備の信頼性確保

① 橋梁・トンネル等の健全度把握

橋梁・トンネル等の健全度を点検調査し、その結果に基づき長期改修計画を策定して改修を行うことで設備の信頼性確保に努めています。

② 設備の老朽化対策と強靭化

変電所及び機関車・客車並びに軌道の老朽設備は計画的に更新し、設備の信頼性確保に努めています。
２０２４年度の設備投資は次のとおりです。

区　分	投　資　内　容	投資金額(百万円)
電気施設	柳橋変電所直流電源装置取替 電車線支持柱(笹９号柱)取替 宇奈月変電所外壁フェンス取替 森石受電盤取替 自動音声ガイダンスシステム設置	１２.０ １１.０ ４.２ ７.９ ２.２
車　　両	ハ形客車　車体改修 電気機関車ＳＩＶ装置取替	９.３ １７.７
土木設備	木製枕木の更新 (ＲＣ８４本　合成２１７本)	１２.０
合　　計		７６.３

ＳＩＶ装置内部

ＳＩＶ装置外観

７．お客さま等とのコミュニケーション

（１）お客さまからのご意見

お客さまのご意見・ご要望を広くお聞きするため、インターネット予約時や駅に掲出しているＱＲコードから入るｗｅｂでのアンケートの仕組みや、ホームページにおいてもお問い合わせ欄を設けております。
こうして寄せられたお客さまの声は、毎月社長以下で構成される「戦略会議」で共有されお客さまサービスに反映されます。さらに黒部峡谷の魅力アップに向け「魅力創造委員会」を設け、お客さま満足度の向上に努めております。

（２）お客さまへのお願い

お客さまに対する「鉄道テロ防止へのご協力」といたしまして、駅構内にポスターを掲示するとともに、案内放送等によりご協力をお願いしています。また、環境美化のためのご協力もお願いしています。
そのほか当鉄道は険しい山岳を縫うように敷設され、発電所建設を目的としていたこともあり、かなり狭いトンネルや建築限界いっぱいの鉄道施設等があります。そのため、輸送の安全を守るために「走行中の電車の窓から顔や手を出さないでください」と車内放送でお客さまにご理解・ご協力をお願いしています。

（３）従業員との対話

経営計画を策定するにあたり、全従業員が出席し自由に意見を述べることができるよう数回にわたり説明会を開催しています。
また、各職場において月１回職場懇談会を開催し、現場の意見・要望を必要に応じ経営トップまで報告し職場環境の改善に努めています。

（４）関係者との協働

当社の工事や保守を行う協力会社様と「安全衛生推進会」を組織して、作業・工事の安全確保と事故防止に取り組んでいます。
また、地元の消防機関と「鉄道災害連絡協議会」を組織して、鉄道災害発生時の緊密な連携と迅速な被災者救出並びに二次災害防止に取り組んでいます。

８．安全の取り組みに対するご意見

本報告に関するご意見・ご感想を、今後の安全に対する取り組み（安全報告書の内容等）に活かしてまいりたいと考えておりますので、下記までお寄せくださいますようお願いします。

◆ 当社ホームページ → お問い合わせ → **「その他お問い合わせ」**にご記入ください。

※ 記載されたお客さまの個人情報は、お客さまとの連絡以外には使用いたしません。

２０２４年度　営業運転終了に伴うセレモニーにて

No1.V-shaped Gorge in Japan

黒部峡谷トロッコ電車